

ICTを活用した古文書の教材化とその教育効果について

鳥根県松江市立乃木小学校

こうどせいじ
神門誠司

【実践の内容】

鳥根大学附属図書館医学分館（以下：医学分館）には、江戸時代後期に華岡青洲から医学を学び、郷土で活躍した医師・大森三楽の資料が多数所蔵されている。その一部は電子映像化されている。本実践では大森三楽研究者・梶谷光弘氏（鳥根県出雲市立佐田小学校長）と医学分館等の協力を得て大森三楽を主題とした電子教材を製作し、（下写真）小学校第6学年の歴史の授業で活用した。その結果「江戸時代には進んだ技術や文化が郷土にも伝わっていた」ということを学ぶのに多大な効果があった。

【論文内容の紹介】

1 本実践の位置づけ

本校で使用している小学校第6学年社会科の教科書（東京書籍）では杉田玄白と解体新書を扱っている。その授業後の発展教材として、大森三楽を取り上げることとした。

2 教材製作の実際

本実践で製作する資料には医学分館の資料の他にも多くの画像資料が必要であった。関係諸機関（早稲田大学図書館、中村学園大学図書館、東京書籍、悠工房）の協力と許諾を得て収集し、一部はデジカメやグラフィックソフト等を用いて自作した。

これらと電子資料をマイクロソフト社のパワーポイントを用い、一斉指導時の提示用教材として製作した。

3 教材製作上の工夫

・冒頭においてクイズ形式で杉田玄白を想起

させて前時と繋げる。

- ・杉田玄白が華岡青洲に外科手術法について教えを請うていることから、郷土の華岡流医師・大森三楽へ繋げる。
- ・杉田玄白、華岡青洲、大森三楽の略年表を提示して時代背景を明確にする。
- ・関連諸機関のWEBサイトへのリンクを張り、必要に応じて呼び出せるようにした。（下記は教材画面の一部）



3 実践の結果

自作した資料では貴重な古文書などを鮮明な画像で提示することもでき、また内容も「わかりやすい」と児童に好評であった。そして授業の前後で「江戸時代の鳥根には、新しい学問や技術を広めるために努力した人達がいたと思いますか」という問いについての児童の意識が下記のように変わるなど、大きな教育効果が見られた。

今後、この教材の普及を図るとともに、学校外の方にも協力いただき、よりよい資料製作と授業実践を目指していきたい。

